

鹿児島国際大学国際化ビジョン

テーマ：『国際的視野でものを考える人材を育成する大学を目指して』

1. 見直しの趣旨及び将来像

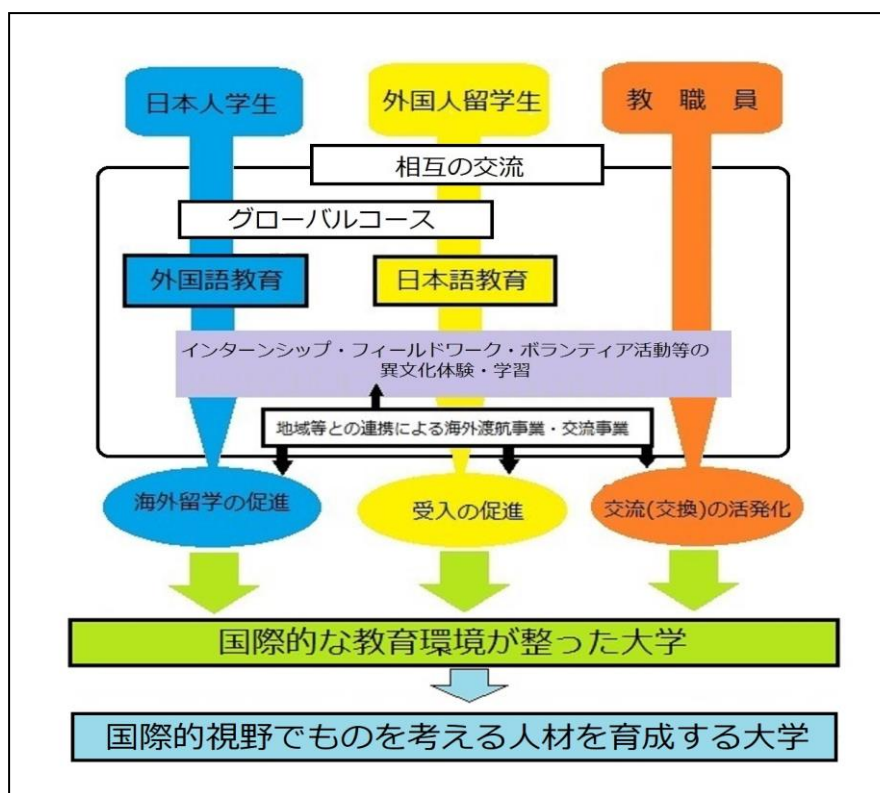
鹿児島国際大学国際化ビジョンは、目指すべき本学の国際化の将来像を示している。このビジョンは、本学の国際交流の現状を踏まえ、大学のコアミッションである「国際的視野でものを考え、地域社会に貢献する人材育成」実現に向け、今後継続的または新たに対応すべき課題からなる。

本学は2015（平成27）年度に策定し、2016（平成28）年度から施行している（旧）国際化ビジョンに基づき、①「鹿児島の地域特性を活かした国際交流の展開」、②「学生の海外留学の促進と外国における就業力の育成」、③「外国語教育の充実」、④「外国人留学生の受入と環境整備」、⑤「外国人留学生の進学・就職支援」、⑥「海外協定校との連携」、⑦「教職員の国際的な人材育成」、⑧「グローバル化のもとでの地域活性化への貢献」という8つの視点から国際化事業を展開してきた。2020（令和2）年度は（旧）国際化ビジョン策定から5年目を迎える。従来 of 事業の進捗状況に基づき、時代変化のニーズに順応する新たな国際化ビジョンを策定する。

日本人学生と留学生が、大学での学びを通じ深く関わることにより、国際化に対応する能力を養成する。そのために、日本人学生に対する外国語教育、外国人留学生への日本語教育をより充実させる。さらに両者が異文化を体験し、理解する機会を設ける。これらの施策により、日本人学生の海外留学促進、外国人留学生の受入拡大を図る。

教職員に対しては、海外研修と受入の実施を通じて、大学間国際交流への教職員の関心・意欲を高める。

鹿児島の地域特性を活かし、地域・行政・企業等と連携しながら、多様な国籍の学生が学び、様々な国へ留学できる“国際的な教育環境が整った大学”の実現を目指す。



2. 国際化推進の方向性

“国際的な教育環境が整った大学”の実現に向けて、主に以下の方面で事業を展開する。

(1) 鹿児島県の地域特性を活かした国際交流の展開

様々な国々との交流を広い視野で展開することが重要である。特に、本土最南端である鹿児島県の近隣であり、これまで本学と多くの人的交流があった中国を含むアジア地域は、今後も継続的な交流が期待される。また、留学生確保の可能性と企業進出の気運が高い。そのため、アジア諸国との交流に重点を置いていく。

- ① 鹿児島空港から国際線の直行便がある地域（上海・台北・香港・ソウル）を軸に、その近隣地域に新規拠点の開拓を行う。
- ② 東南アジア諸国への開拓を進める。
- ③ 日本との国際交流の要望が高い中国内陸部への開拓を検討する。
- ④ 本学と長い交流の歴史がある中国沿岸部（特に大連）との交流を強化する。

目標：3つの地域（環黄海経済圏、東南アジア、中国内陸部）での新規拠点を増やす。

(2) 学生の海外留学の促進と外国における就業力の育成

学生が実際に異文化に触れ、かつ外国語に囲まれた環境で学習・就業体験することによる教育効果は大きい。また、「国際的視野でものを考える人材育成」に直結する。

- ① 学生の海外留学をより促進する。従来の交換留学制度の継続・発展に加え、短・中期の語学研修制度の充実を図ることで、留学・研修の選択の幅を広げる。
- ② 英語を使用する国・地域でのインターンシップ先を新規に開拓する。
- ③ 学生の異文化への理解・関心を深める施策を充実させる。

目標：全学生数の3%（約80名）以上の学生海外派遣者数，うち海外インターンシップ参加者1%（約30名）を目指す。

(3) 外国語学習支援

より充実した外国語学習環境を整備する。

- ① 外国語検定資格取得に対する支援体制を強化する。
- ② 外国語による授業の拡充を図る。
- ③ 英語と並び、今後広く有用性が増すことが見込まれる中国語の教育環境の充実を図る。
- ④ 留学生が卒業までに日本語能力試験1級に合格できるよう、留学生に対する日本語学習環境を充実させる。

(4) 外国人留学生の受入と生活支援

外国人留学生は、国際交流・異文化体験上重要な人材である。また、本学から学外への情報発信にとって不可欠である。

- ① アジア地域からの留学生受入を継続・促進する。また、受入先機関の多様化を図る。
- ② 鹿児島県と関わりがある地域（上海周辺・台湾・ソウル・香港）や東南アジア諸国（ベトナム・フィリピンなど）からの受入拡大を図る。
- ③ 留学生の受入に当たって重要な要素である住居の整備（国際交流会館と学外宿舍の運用など）と、留学生向けの教育体制（日本語プログラムなど）の充実を図る。
- ④ 授業料減免制度は、新たに検定資格の取得等に応じた減免制度の導入を検討する。
- ⑤ 本学独自の留学生支援体制の充実を図る（留学生のフィールドワークへの参加支援，留学生支援室による生活支援）。

目標：全学生数の5%（約150名）以上の留学生受入を目指す。

【2019（令和元）年10月1日現在の全学生2691名のうち私費外国人留学生が151名で、全学生数に占める割合は5.6%である】

（5）外国人留学生の進学・就職支援

外国人留学生に幅広い進路選択の可能性を提供することも、国際的な教育環境の整備には欠かせない。

- ① 外国人留学生の国内インターンシップへの参加を促進する。
- ② 外国人留学生の国内での就職支援，特に外国人留学生が即戦力となり得る鹿児島における海外向け観光業への就職に重点をおいた支援を行う。
- ③ グローバルエリートの育成を目指し，博士号の取得や海外大学とのダブルディグリーの取得可能な修学支援体制を整備する。

目標：当該年度卒業留学生の国内就職率20%

【2019（令和元）年9月卒業留学生24名のうち国内で就職した留学生は2名で、国内就職率は8.3%である。】

（6）海外協定校との連携

日本人学生の海外留学，外国人留学生の受け入れ，教職員の交換のいずれの観点からも，海外協定校は本学の国際交流事業の展開上欠かせないパートナーである。

- ① 各協定校との交流状況を検証し，結果を踏まえて協定のあり方を再検討する。
- ② 外国人留学生の受入先と，日本人学生の留学先の多様化を図るため，英語圏を中心に新規協定校の開拓を進める。

（7）教職員の国際的な人材育成

海外協定校との教職員交換事業は，大連外国語大学を除けば，活発とは言えない状況にある。しかしながら，国際交流に適応した教職員の育成は，将来の国際交流事業を牽引し，国際的な教育環境づくりを促進するために重要な要素である。

- ① 教職員の交流を促進するための制度及び環境を整備する。
- ② 教職員交換事業への参加を広く呼びかけ，大学の教職員全体の「国際化」を図る。
- ③ 教職員の異文化への理解・関心を深める事業を展開する。

(8) グローバル化のもとでの地域活性化への貢献

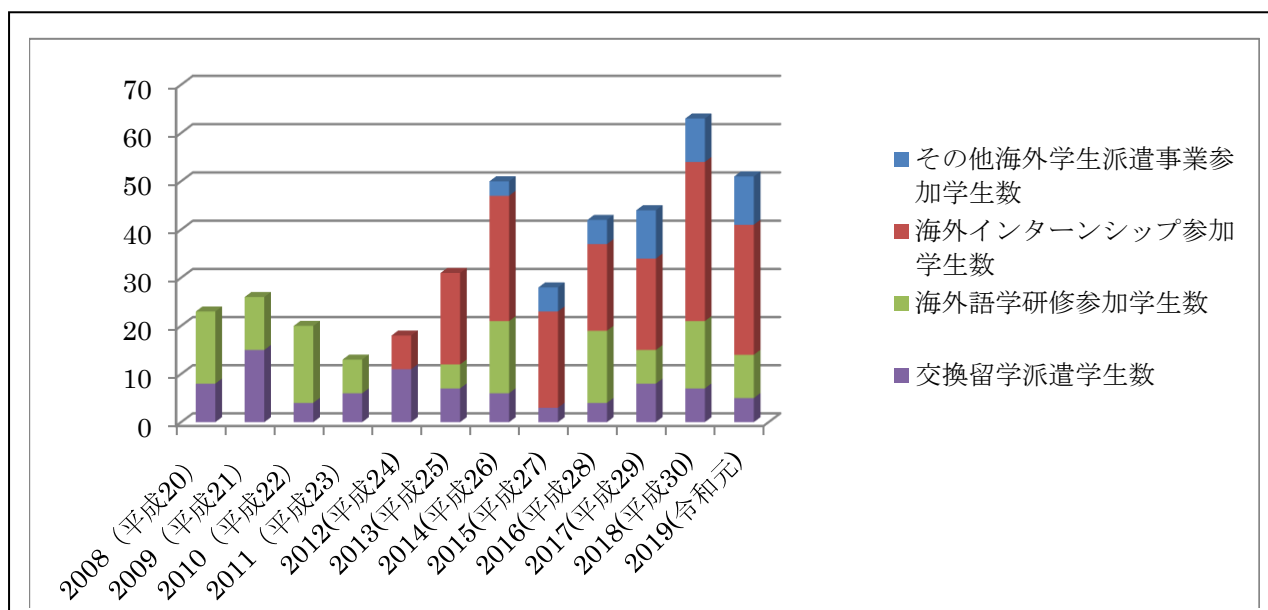
近年、鹿児島県と連携した留学制度や、鹿児島県国際交流協会・鹿児島市国際交流財団と連携した国際交流行事が増加傾向にあり、地域の機関・団体と良好な協力体制が構築されつつある。

- ① 従来の行事を拡充すると同時に、学生・外国人留学生が地域と関わることができる国際交流活動の機会を増やす。
- ② 学生による通訳ボランティアなど、国際交流ボランティアの育成を図り、地域活性化に貢献する。

3. 本学の国際交流の現状

(1) 学生の海外派遣事業

学生の海外派遣事業に係る参加学生数



海外派遣事業は、交換留学生派遣、海外語学研修、海外インターンシップ及びその他海外派遣事業を含める。2016（平成 28）年度から国際化ビジョンを展開して以来、学生の海外派遣事業参加者数は増加しつつある。その内訳は以下のとおりである。

海外留学については、交換留学派遣学生数は大きな変動がないが、英語圏の複数協定校への派遣数は伸び悩んでいる。その他海外派遣事業参加学生数は、鹿児島県清華大学留学生支援プログラム参加者数を表している。このプログラムには 2014（平成 26）年度の実施以降、本学の学生は毎年採用されている。

海外語学研修は韓国では毎年、アメリカとイギリスでは隔年で実施。2015（平成 27）年度は MERS 流行のため、海外語学研修は全て中止となった。

海外インターンシップについては、以下の表に示したように、2012（平成 24）年度から鹿児島相互信用金庫との産学連携事業の一環として全学で実施しているが、当時のインターンシップ先は中国大連の会社のみであった。平成 25 年度は中国に加えて、韓国、台湾でも実施し、2014（平成 26）年度は新たに英語が公用語であるシンガポール

で実施した。インターンシップ先は受入先の状況等により、年度によって変動があるものの、大連及び台北では継続して実施できている。台湾においては2018（平成30）年度から台北のほかにも高雄でも実施しているため、参加者が増加している。

2018年度（平成30）よりシンガポール受入れ先の事情により、シンガポールでのインターンシップが実施できなくなった。2019（令和元）年度には香港情勢不安のため、香港インターンシップの実施を中止した。

コース	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019
大連	→							
韓国		↔						
台北		→						
シンガポール			←→					
香港					→			
高雄		↔					→	

全体の海外派遣事業参加者数は半年～1年間という中・長期かつ枠の限られた交換留学派遣よりも、経済的負担が低く、将来の就職につながる短期の派遣事業への参加者が増えている傾向にある。

（2）外国語教育

全学部の「カリキュラムのスリム化」を目的に、2016（平成28）年度にカリキュラム変更を行った。経済学部・福祉社会学部では、共通教育科目として、語学研修を含む9つの英語科目を開設、第二外国語科目として、語学研修を含む中国語・スペイン語・フランス語・韓国語の12科目を開設している。

国際文化学科では、共通教育科目として、語学研修を含む9つの英語科目、第二外国語科目として、語学研修を含む中国語・スペイン語・フランス語・ドイツ語・韓国語・イタリア語の14科目を開設している。さらに、専門教育科目の英語科目では、中級の4科目と英会話2科目、上級の1科目、その他英語関係科目として16科目開設されている。また、専門教育科目の第二外国語科目として、韓国語と中国語を開設し、初級を各々2科目ずつの計4科目、中級を各々1科目ずつの計2科目、上級を2科目、会話系を各々4科目ずつの計8科目、検定系を各々1科目ずつの計2科目開設している。

音楽学科では、共通教育科目として、語学研修を含む9つの英語科目、第二外国語科目として、語学研修を含む中国語・スペイン語・フランス語・ドイツ語・韓国語・

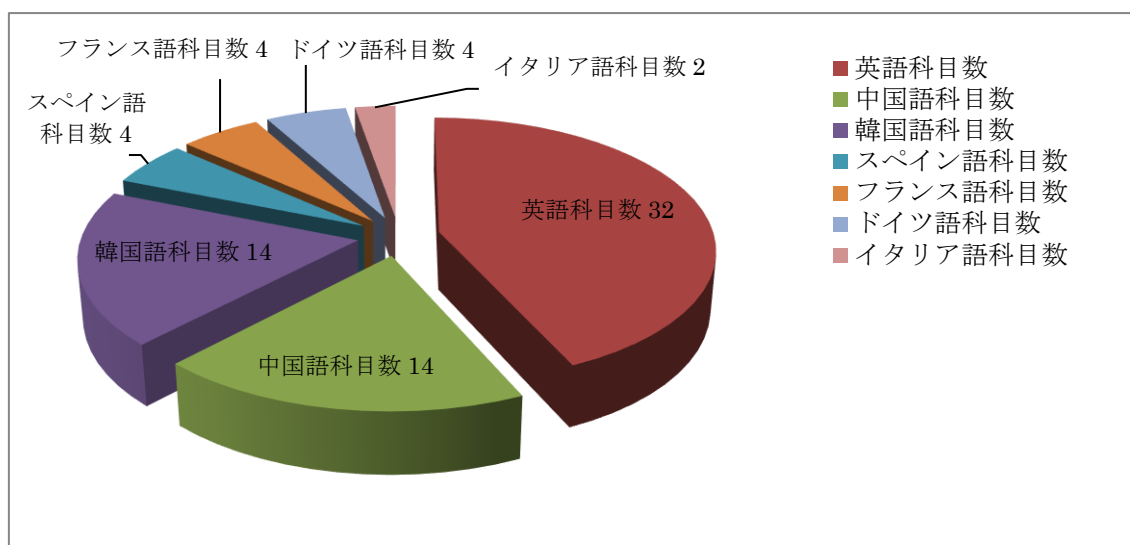
イタリア語の 14 科目を開設している。専門教育科目の英語科目では、中級の 4 科目が開設されている。

外国人留学生向けの日本語教育については、2007（平成 19）年度より日本語特別プログラムを開設し、本プログラムに開設されている授業科目を 16 単位以上修得した学生には本学独自の「日本語特別プログラム修了」を認定している。

日本語特別プログラムは、外国人留学生が日本語に関する知識を学び、高度な日本語運用能力を身につけることができるよう、その学修を支援することを目的に設けられたものである。

また、日本語特別プログラムの開設科目にある「日本語入門Ⅰ、日本語入門Ⅱ、初級日本語Ⅰ、初級日本語Ⅱ、中級日本語Ⅰ、中級日本語Ⅱ」は、日本語集中クラスとして、学生の日本語能力別に 2 クラスに分け、少人数教育で週 2 コマ（各々 30 回）授業を実施し、日本語能力を高めている。

外国語科目数（令和元年度：全学部）

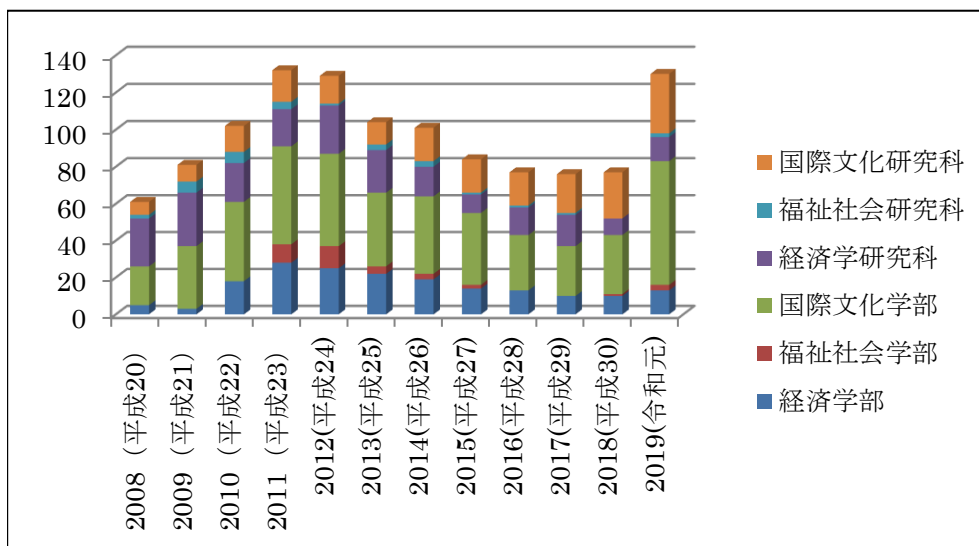


さらに、正課外においても、外国人留学生の日本語能力の底上げと日本語でのコミュニケーション能力を高めるために、2016（平成 28）年度に日本語課外教室を、2018（平成 30）年度に基礎力アップ日本語講座をそれぞれ開設している。

(3) 外国人留学生の受入

① 所属別留学生数（交換・研究生を除く）

(各年5月1日現在)



外国人留学生数は、全体的に2011（平成23）年をピークに減少傾向にあった。これは、東日本大震災の発生（同年3月）による要因のほか、本学が留学生に対する授業料減免率を35%から25%に引き下げたこと[2013（平成25）年]が影響したものと考えられるが、ここ数年はやや増加傾向にある。

受入開始以来、所属学部・研究科の内訳は国際文化学部・国際文化研究科が最も多く、経済学部・経済学研究科がそれに次ぐ割合を保ちながら推移している。

② 全学生数に占める留学生数の割合（交換・研究生を除く）

(各年5月1日現在)

	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)
留学生数 (A)	61	81	102	132	129	104	101	84	77	76	77	130
全学生数 (B)	4146	4006	3814	3658	3370	3181	3004	2791	2726	2674	2634	2712
割合 (%) (A/B)	1.5%	2.0%	2.7%	3.6%	3.8%	3.3%	3.4%	3.0%	2.8%	2.8%	2.9%	4.8%

津曲学園中期ビジョン(2017-2021)では2021（令和3）年に全学生数に占める留学生数の割合を5.0%にするという目標を掲げている。実際はそれに先駆けて、2016（平成28）年から国際化ビジョンを基に取り組んでいるが、既に2019（令和元）年の前期には、在籍留学生の割合はその目標に大きく近づいている。

なお、2019（令和元）年10月1日現在では5.6%（留学生在籍数151名/全在籍学生数2691名）となり、目標5.0%を超えている。

③ 外国人留学生の国籍と現地入試による入学者の割合（交換留学生を含む）

（各年 5 月 1 日現在）

	2008(H20)	2009(H21)	2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)	2013(H25)	2014(H26)	2015(H27)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)
中国(A)	57	72	91	127	123	101	100	81	73	73	76	126
大連入試による在籍者数(B)	31	41	60	85	80	62	56	50	41	40	44	83
香港入試による在籍者数(C)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8
台湾	11	14	13	7	10	7	4	3	5	4	4	5
韓国	2	2	3	0	3	1	1	2	2	1	2	3
アメリカ	0	0	1	2	1	0	1	0	0	0	0	0
カナダ	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
イギリス	0	0	0	0	2	2	2	2	0	0	0	0
ラトヴィア	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
ベトナム	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	2	2
全留学生数(D)	70	88	109	136	141	111	108	89	82	80	84	136
中国からの留学生/全留学生(%)(A/D)	81.4	81.8	83.5	93.4	87.2	91.0	92.6	91.0	89.0	91.3	90.5	92.6
大連入試の留学生/全留学生(%)(B/D)	44.3	46.6	55.0	62.5	56.7	55.9	51.9	56.2	50.0	50.0	52.4	61.0

国・地域別の留学生数は表に示すように、中国籍の留学生が 90%程度を占めている。数年前からベトナム籍の留学生を受け入れているが、ごく少数に止まっている。国・地域別の留学生数は、大学名を鹿児島国際大学に変更した当初から、地理的に近い中国や韓国及び台湾の留学生を受け入れてきた経緯が関連しているが、多様な国籍の留学生を受け入れるための態勢は未だ整えられていないのが現状である。

中国籍の留学生が圧倒的多数である要因としては、その半数以上が中国・大連外国語大学で行っている特別入試の受験を経て入学していることが挙げられる。2018（平成 30）年度秋季からは香港からの三年次編入生を受け入れ始めているが、それ以外の入学経路が少ないため、大連での受験の増減が留学生数に大きく影響する状況にある。

（４）外国人留学生の日本国内への進学・就職状況

国際化ビジョンの取組の方向性に沿って、留学生就職ガイダンスや就業力育成研修を実施し、国内インターンシップへの参加を促進している。

留学生は卒業・修了後、概ね半数以上が帰国して就職・進学する状況にあり、日本国内に留まって就職する学生は少ない状況が続いている。しかしながら、年度により差があるものの国内への就職者を毎年確実に輩出している。日本国内の就職先としては、鹿児島県内では城山観光、南国交通などの観光業、県外では多様な業種の一般企業に就職している。

一方、日本国内で学部を卒業した留学生が大学院へ、大学院修士課程を修了した留学生が博士課程へ進学する数は国内就職者数以上の数で推移している。進学の場合、本学の学部から本学の大学院へ進学するケースが多いが、日本国内の他大学院へ進学するケースもある。

外国人留学生の国内就職率及び進学率

		2008(H20)	2009(H21)	2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)	2013(H25)	2014(H26)	2015(H27)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)
卒業・進路・修了後の	日本国内就職 (A)	3	6	1	7	8	8	2	6	3	9	1
	進学 (日本国内) (B)	6	4	8	14	14	12	6	18	5	8	8
	帰国その他	6	19	19	25	34	23	23	20	13	20	12
留学生の卒業・修了者合計 (C)		15	29	28	46	56	43	31	44	21	37	21
国内就職/留学生の卒業・修了者 (%) (A/C)		20.00	20.69	3.57	15.22	14.29	18.60	6.45	13.64	14.29	24.32	4.76
国内就職+進学/留学生の卒業・修了者 (%) (A+B/C)		60.00	34.48	32.14	45.65	39.29	46.51	25.81	54.55	38.10	46.95	42.86

(5) 海外協定校との連携と教職員交流

現在までに海外の 14 大学及び 1 研究所との学術交流協定を結んでおり、協定 (交流) の内容は教職員交流と学生交流、または学生交流のみ、共同研究のみと様々である。但し、実質的に交流を行っていない協定校もあるため、協定校については改めて見直す必要がある。

直近四年間で、協定校との学生交流については、中国大連外国語大学、韓国培材大学校、国立台湾師範大学、台北城市科技大学、高雄科技大学、カナダジョージアン・カレッジとの間で学生の受入や派遣を行っている。英語圏への派遣は、本学学生の英語能力が協定校の語学要件を満たさないため、ジョージアン・カレッジの EAP コース以外の協定校に派遣できていない状況にあるが、津曲学園中期ビジョンにも掲げているとおり学生の海外留学を促進するため、2017 (平成 29) 年 6 月から英語圏留学講座を新たに開設している。

教職員交流については、2018 (平成 30) 年 9 月には大連外国語大学から本学へ教職員 4 名を受け入れるとともに、本学からも大連外国語大学へ教職員 4 名を派遣するなど、交流を活発化している。

なお、2019 (令和元) 年 7 月に大連外国語大学より教職員 4 名を受け入れ、同年 12 月に本学から 2 名の教職員を大連外国語大学に派遣した。

海外協定校との交流状況		2016 (H28)				2017 (H29)				2018 (H30)				2019 (R1)			
【英語圏の協定校】	締結日及び交流内容	教職員 派遣	教職員 受入	学生 派遣	学生 受入	教職員 派遣	教職員 受入	学生 派遣	学生 受入	教職員 派遣	教職員 受入	学生 派遣	学生 受入	教職員 派遣	教職員 受入	学生 派遣	学生 受入
1	ラバール大学 (カナダ・ケベック)					—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	アノミド・ワッド・アノミド大学 (カナダ・プリンスエドワード島)																
3	ジョージア応用文科学術大学 (カナダ・バリー)	—	—	2		—	—	3		—	—	4		—	—	2	
4	クラーク大学 (アメリカ・デューブーク)																
5	フロリダ国際大学 (アメリカ・マイアミ)																
6	セントラルランカシャー大学 (イギリス・プレストン)	—	—			—	—			—	—			—	—		
7	エディンバラ大学 (オーストラリア・パース)					—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
英語圏計				2				3				4				2	
【アジア圏の協定校】		教職員 派遣	教職員 受入	学生 派遣	学生 受入	教職員 派遣	教職員 受入	学生 派遣	学生 受入	教職員 派遣	教職員 受入	学生 派遣	学生 受入	教職員 派遣	教職員 受入	学生 派遣	学生 受入
8	大連外国語大学 (中国・大連)				2			1	2	4	4		2	2	4		2
9	華東師範大学 (中国・上海)																
10	台北城市科技大学 (台湾・台北)				1			1	1				1				1
11	国立台湾師範大学 (台湾・台北)							1				1				1	1
12	国立高雄科技大学 (台湾・高雄)				2				2				2				1
13	慶熙大学校 (韓国・ソウル)																
14	培材大学校 (韓国・大田広域市)	1		2	2			2	1			2	2			2	2
【研究所】		共同研究・セミナー				共同研究・セミナー				共同研究・セミナー				共同研究・セミナー			
1	チュロンコン大学アジア研究所 (タイ・バンコク)																
アジア圏計		1		2	7			5	6	4	4	3	7	2	4	3	7
合計		1		4	7			8	6	4	4	7	7	2	4	5	7
海外認定校との交流状況		2016 (H28)				2017 (H29)				2018 (H30)				2019 (R1)			
【アジア圏の認定校】		教職員 派遣	教職員 受入	学生 派遣	学生 受入	教職員 派遣	教職員 受入	学生 派遣	学生 受入	教職員 派遣	教職員 受入	学生 派遣	学生 受入	教職員 派遣	教職員 受入	学生 派遣	学生 受入
1	清華大学 (中国・北京)	—	—	5	—	—	—	4	—	—	—	1	—	—	—	1	—

(6) 地域のグローバル化及び活性化への貢献

本学で学んでいる留学生が地域社会に受け込み、日本（鹿児島）の伝統や風習などを体験するために、地域と関わる様々な行事や交流活動への参加を促進している。地域の行事や交流活動等に積極的に参加することによって、地域のグローバル化及び活性化への貢献を図っている。

なお、その内訳としては、定期的実施される伝統行事などの活動と不定期（単発）で実施される活動とに分けられる。

1) 定期的に実施される伝統行事などの活動

ア「鹿児島おぎおんさあ祇園祭」 鹿児島商工会議所が毎年7月に実施する鹿児島の伝統行事に留学生が神輿の担ぎ手として参加している。

年 度	留学生参加人数
2017（平成29）年度	9名
2018（平成30）年度	5名
2019（令和元）年度	3名

イ「谷山ふるさと祭り」 かがしま市商工会(谷山本所)が毎年10月に実施する地域の伝統行事である。本学が所在している地域の伝統行事ということもあり、毎年鹿児島国際大学として踊り連に教職員、日本人学生及び留学生が参加している。

年 度	留学生参加人数
2016（平成28）年度	16名
2017（平成29）年度	14名
2018（平成30）年度	24名
2019（令和元）年度	24名

ウ「地域住民との交流会」 本学が毎年テーマを変えて、地域住民との交流を通して日本文化や風習などを留学生に伝えている。

年 度	テーマ	留学生参加人数	実施日
2016（平成28）年度	夏のカルタ大会	9名	8月6日
	新年会	15名	1月7日
2017（平成29）年度	門松作り	13名	12月23日
2018（平成30）年度	いろはかるた大会	18名	1月12日
2019（令和元）年度	日本文化体験・クリスマス会	23名	12月21日

エ「日本語スピーチコンテスト」 鹿児島県国際交流協会が主催しているコンテストに毎年本学留学生を参加させている。

年 度	応募者数	備 考
2016（平成28）年度	1名	優秀賞受賞
2017（平成29）年度	1名	
2018（平成30）年度	3名	
2019（令和元）年度	2名	

2) 不定期（単発）で実施される活動

年 度	活動名	留学生参加人数
2016（平成 28）年度	種子島・留学生モニターツアー	15 名
	海外向け県産品モニター求評会	6 名
2017（平成 29）年度	種子島・国際化による地域振興・商店街活性化に向けて	1 名
2018（平成 30）年度	鹿児島県人世界大会	19 名
	留学生観光体験ツアー (いちき串木野市・日置市・南さつま市・南九州市・枕崎市)	15 名
2019（令和元）年度	小原流生け花教室	4 名
	ホームステイプログラム in 屋久島	6 名

このような活動を通して、留学生は異文化理解を深めるとともに地域のグローバル化及び活性化に大きく貢献している。